

在住外国人、特に実習生に対する人権課題

## \*支援者からの通報

実習生が海に遊びに行きケガ（詳細不明）をした。病院に連れていかれるが、本人は保険証を持っていない。（会社が管理している）

本人は10割負担になるが、お金は足りず仲間が出し合って払う。

会社にこの事を告げて、保険証を返してもらい、病院に返金してもらうことは出来るが、それは出来ないという。話すとペナルティが付くという。

しまね国際センターや実習生機構に相談できるが、知らなかったり、怖くてできないと言う。

- 実習生は携帯を持っていても電話機能・データ通信機能がない人が多く、Wi-Fi環境がないと緊急事態でも連絡を取ることができません
- 労働条件や困ったことが有っても、受け入れ企業や管理団体に訴えることは自分の立場が悪くなるだけなので、支援者に言ってほしくないと言います
- 実習生向けの情報は受け入れ企業や管理団体を通して実習生に伝えられることが多く必要なことを知らされていないこともあります。（「実習生手帳」のアプリ版があることを知らない実習生もいる）
- 様々な実習生の事件が報道されるが、実習生側の状況を十分に考えられていないことが多いようです（技能実習生機構の担当者も状況は理解されているが、対応策は考えられていない）
- 上記のような状況は、以前から言われている制度的な問題や、技能実習生が置かれている立場の弱さなど、技能実習生制度の形は進んでいるようでも、根本的に実習生の立場に立って運用されていないことに起因している。

## \*派遣社員、在住外国人からの声

- 社内では日本人に挨拶しても返事が返ってこないことが多い。
- 日本人との会話はほとんどない。
- 細かい作業は外国人、簡単な方は日本人のような傾向がある。
- 能力でなく外国人ということで、面接で断られる。
- 職場で日本人からの偏見、差別を感じるとの声。
- 他県での居住経験者の中には、島根の日本人は冷たいと思うとの声も。
- 多文化共生が言われつつも、多くの在住外国人は差別や偏見を感じながら生活している
- 在住外国人（特に技能実習生、特定技能など）の実態把握ができているのでしょうか。

平田 節子